

# 令和8年春期 奈良中心市街地における 渋滞対策の取組結果と今後の方針

## (1) 奈良公園ぐるっとバス

### 【取組結果】

- 令和7年に料金が値上げされ便数が減少した結果、GW期間における「奈良公園ぐるっとバス」の1日あたりの利用者数は令和7年春期より**増加**。1便あたりの利用者数は令和7年春期と**同程度**にとどまっており、**一定の需要が見られる**。
- バス利用者ヒアリング調査で、「満足」・「やや満足」と回答した人の割合は、令和7年春期より**増加**しており、「不満」・「やや不満」と回答した人の割合は**6%**で、例年と同様低い水準である。
- バスを利用した際の悪かった点では「**バス車内が混雑していた**」が最も多く、次いで「**渋滞に巻き込まれたため、時間通りにバスが動かなかった**」の割合が多いものの、令和7年春期より**減少**しており、「特になし」が令和7年春期より**増加**。
- 4月～5月における「**ならまち・元興寺**」停留所の乗車人数は、令和7年春期と**同程度**。「**若草山麓**」停留所の乗車人数は令和7年春期と**同程度**。

### 【分析結果】

- 令和7年春期と比較して、1日あたりの利用者数は増加、1便あたりの利用者数はほぼ同程度であったことから、一定のニーズの高まりが確認された。
- ヒアリング調査より、「満足」・「やや満足」と回答した人の割合が令和7年春期より増加していることから、バス利用者の満足度は向上していると考えられる。また、バスを利用した際の悪かった点で渋滞によるバスの遅延やバスの混雑状況を指摘する割合が減少していることから、バスの遅延や混雑状況が満足度に影響している可能性がある。

### 【今後の方針】

- 「奈良公園ぐるっとバス」に対する一定のニーズの高まりがあったことから、**取り組みを継続**する。
- 渋滞によるバスの遅延やバスの混雑状況は改善傾向にある。引き続き**奈良公園内道路の渋滞緩和**に取り組むほか、利用者数や満足度への**影響を引き続き確認**する。

## (2) パーク&amp;ライド

## 【取組結果】

- 自動車来訪者のうちP&R駐車場を「知っていた」割合は34%で令和7年春期より**減少**したものの、**P&R駐車場の利用台数**は令和7年春期と**同程度**。
- P&R駐車場の**収容台数**は令和7年春期より**減少**したものの、**無料駐車場の開設数を増やした**ことで利用が分散され、**占有率**は令和7年春期より**改善**。また、入庫開始時間を8時に前倒した結果、利用者の12%が8時台に入庫し、また、出庫終了時間を21時まで延長した結果、利用者の12%が18時以降に出庫した。
- **P&R駐車場を知った媒体**として、「**出発前**」はホームページが最も多い。「**道中**」でP&R駐車場を知る割合は令和7年春期より**増加**。
- **P&R駐車場の満空情報**をXで定期的に発信したが、令和7年秋期と比較して**インプレッション数、エンゲージメント数、エンゲージメント率は低下**。
- P&R駐車場の今後の利用意向として「**また利用すると思う**」という回答した割合が、過年度より**増加**。P&R駐車場を利用した理由は「**駐車場代が無料**」が**69%**で最大。利用者のうち、「**バス往復券(1人500円)が無くてもP&R駐車場を利用する**」と回答した人の割合は**63%**。
- **SHIKA no ASHIATOポイント付与人数**は、令和7年秋期より開始し、今回**増加**。レンタサイクル等の利用者は、1日平均で**33台**であり、過年度より**減少**。
- **公共交通およびP&R駐車場の分担率は56%**となり、令和7年春期より**減少**している。また、**P&R駐車場利用による流入抑制効果**は**約6%**と推定され、令和7年春期と**同程度**。

## 【分析結果】

- P&R駐車場の認知度は低下したものの、利用台数は令和7年春期と同程度であり、一定の利用需要が定着していると考えられる。
- 無料駐車場の開設数を増やしたことにより利用が分散され、駐車場運用の平準化や受入余力の確保に一定の効果があつたと考えられる。また、入庫開始時間の前倒し及び出庫時間の延長により、早朝及び夕方以降の利用需要に対応できたものと考えられる。
- 出発前にP&R駐車場を発信する媒体としてはホームページが有効である。また、道路での情報発信を強化したことにより出発後にP&R駐車場を認知した割合が増加した可能性がある。
- Xによる情報発信は一定数閲覧されているものの、利用者の反応は限定的であり、SNS単独ではなく、ホームページへの誘導を含めた情報発信手法の検討が必要である。
- 利用者の再利用意向は高く、「**駐車場代が無料**」が利用の大きな動機となっている。また、利用者の37%はバス往復券がなくなると利用しないと回答しており、バス往復券も利用促進に一定の役割を果たしていると考えられる。
- SHIKA no ASHIATOポイント付与人数は増加したものの、レンタサイクル利用者数は令和7年春期より減少したことについては今期は雨天が多く、天候が利用状況に影響した可能性が考えられる。
- 公共交通及びP&R駐車場の分担率は令和7年春期より低下し、自動車利用への転換が見られたが、雨天により自動車利用を選択する来訪者が増加した可能性が考えられる。一方で、P&R駐車場利用による流入抑制効果は令和7年春期と同程度であり、交通分散に一定の効果を発揮していると考えられる。

## 【今後の方針】

- P&R駐車場の利用需要及び流入抑制効果が引き続き確認されたことから、**P&R駐車場の運営を継続**するとともに、**認知度向上及び利用促進を図り、奈良公園周辺への流入交通の抑制及び交通分散を推進**する。
- **無料駐車場の配置や入庫開始時間の前倒し、出庫時間の延長**については一定の効果が確認されたことから、**引き続き実施**する。
- **ホームページを中心とした情報発信を継続し、SNSとの連携を強化**するとともに、道路での情報発信を活用し、出発前及び移動中における**P&R駐車場の認知度向上を図る**。
- 利用促進に一定の効果が確認された**バス往復券・SHIKA no ASHIATOポイント**については**継続**するものとし、引き続き、利用実態や費用対効果を踏まえながら、**効果的なインセンティブのあり方**を検討する。

### (3) 情報発信

#### 【取組結果】

- 大阪方面から奈良公園方面へ車で向かう人を対象に、**LEDビジョントラック及び規制車を配置**し、奈良公園周辺道路の混雑情報やパーク＆ライド駐車場の情報を発信。LEDビジョントラックと規制車の比較では、**ドライバーからの認識は規制車の方が高く、内容の理解はLEDビジョントラックの方が高い**。
- 各方面から奈良公園方面へ車で向かう人を対象に、奈良公園内道路の混雑情報を**カーナビにより発信**。
- 3種類の情報配信による**行動変容**を比較すると、LEDビジョントラックは約1%、規制車は約4%、カーナビは約5%となっており、**カーナビによる情報配信の効果が最も高い**。
- HPには、奈良公園内道路や大宮通り等に設置したカメラによるリアルタイムの交通状況を配信するとともに、過去の道路の混雑状態や天気予報等から将来の道路の混雑を予測する「AI道路混雑予報」を掲載。
- **AI道路混雑予報の認知度は約12%**。情報提供により約**50%が行動変容**しており、**約60%の人が「情報提供が役に立った」と回答**。

#### 【分析結果】

- LEDビジョントラック、規制車及びカーナビによる情報発信のうち、カーナビによる情報発信が最も高い行動変容効果を示しており、交通分散に有効であると考えられる。
- 規制車は認知度が高く、LEDビジョントラックは情報内容の理解度が高いことから、それぞれ異なる特性を有していると考えられる。
- AI道路混雑予報は認知度が約12%と低いものの、情報を認知した人の約50%が行動変容しており、また約60%が有用と回答していることから、出発前の行動判断に有効な情報であると考えられる。

#### 【今後の方針】

- 行動変容効果の高いカーナビによる情報発信の充実を図る。
- LEDビジョントラック及び規制車については、それぞれの特性を踏まえ、情報内容や設置場所に応じた効果的な活用を図る。
- AI道路混雑予報については、出発前の行動判断に有効な情報であることから、ホームページやSNS等を活用した周知を強化し、利用促進を図る。

## (4) 交通状況について

### 【調査結果】

#### 各交差点の交通量・渋滞長について

- 三条大路2丁目交差点、県庁東交差点の交通量は**増加**。その他の交差点においては過年度とほぼ**同程度**。
- 県庁東交差点では、**全方向の最大渋滞長が減少**し、特に東西方向の最大渋滞長が大幅に減少した。その他の交差点についても**概ね減少**傾向である。一方、二条大路南5丁目交差点では、**一時的な交通集中**により最大渋滞長が増加したものの、継続的な渋滞は確認されなかった。

#### 県庁東交差点・大宮通り・奈良公園内の交通状況について

- 県庁東交差点西側からの流入交通量は、令和7年春期に比べると**増加**しているが、県庁東交差点西側の**最大渋滞長は、過年度に比べると大幅に減少**。
- 県庁東交差点から東側の区域の混雑は、令和7年春期より**緩和**。
- 大仏殿交差点東側への流入交通量は、過年度と**同程度**だが、観光バスの交通量は**減少**。
- 氷室神社前バス停において、**一部路線バスが停車しない運用等**を実施した結果、後続車両の**停車時間**が令和7年春期より**減少**。

#### 大阪方面への西行きの交通状況について

- 大宮通りでは、一部で最大渋滞長が増加したが、**平均旅行速度**は令和7年春期と**同程度**。
- 三条通りでは、**平均旅行速度**は令和7年春期より**改善**。
- 菅原東交差点において、大宮通り側は**1日を通して渋滞が発生していない**が、三条通り側では**最大渋滞長**が令和7年春期より**悪化**。

### 【分析結果】

- 交通量が増加した交差点も見られたが、各交差点の最大渋滞長は概ね減少傾向であり、一部で最大渋滞長の増加が見られたものの、天候や帰宅交通の集中など当日の交通状況の影響による局所的な事象であった可能性があり、全体として大きな渋滞の発生は限定的であったと考えられる。
- 県庁東交差点西側からの流入交通量は増加した一方で最大渋滞長は減少しており、奈良公園周辺道路の交通流が円滑化した可能性がある。
- 大仏殿交差点東側への流入交通量は過年度と同程度である一方、観光バス交通量は減少しており、大型車による交通流への影響が低減した可能性がある。
- 一部路線バスの運用見直しにより交通阻害が減少し、奈良公園内の混雑改善に寄与した可能性がある。
- 大宮通りでは、15時以降に一部で最大渋滞長が増加したものの、平均旅行速度は過年度と同程度であり、交通状況は概ね維持されていたと考えられる。
- 菅原東交差点では、三条通り側において15時以降の最大渋滞長が令和7年春期より増加したが、流入交通量は過年度より減少していることから、当日の交通需要の偏りが影響した可能性が考えられる。
- 本調査日においては15時以降に天候が悪化したことから、帰宅交通が一時的に集中した特異な状況であった可能性があり、単一日の調査結果のみで混雑傾向を評価することには留意が必要である。

### 【今後の方針】

- **プローブデータ等**を活用し、特定日の状況だけでなく、**連休期間全体を通じた交通状況や混雑傾向の把握**する。  
(今後、国と調整)
- 大型車による交通影響の低減に向け、**バスターミナルの運用**を引き続き行う。
- 大阪方面への帰宅交通が集中する時間帯における交通分散及び迂回利用を促進するため、**SNS等を活用した情報発信**を実施する。